モーターファン・オートスポーツ NO.30

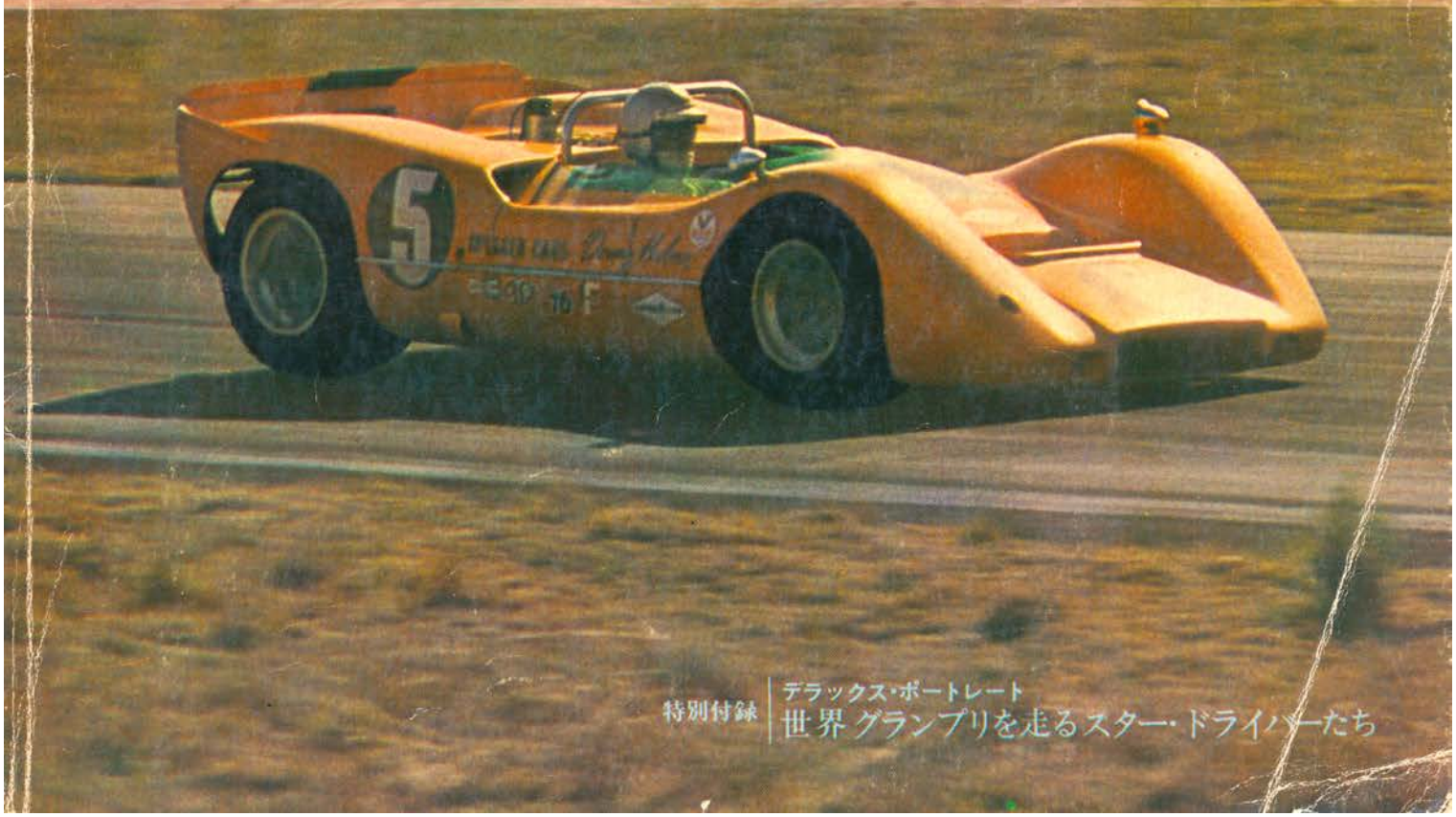
AUTO SPORT 1968 1

《特別グラフ》68年に賭ける国内ビッグ・チームの精鋭

《新連載》国際レース界の舞台裏——フランス人記者の特別寄稿

《レース速報》火炎にいろどられた富士12時間——12月3日

《カラー・ハイライト》67年CAN-AMシリーズ



特別付録 デラックス・ポートレート 世界グランプリを走るスター・ドライバーたち

ロータス・エランの独走！

富士チャンピオン・レース 後期第5戦

11月23日

後期第5戦を迎えた富士チャンピオン・レースは、さる11月23日、富士スピードウェイの6kmフルコースでおこなわれた。

このレースはコース・オーナーの富士スピードウェイが“モーター・スポーツの底辺ひろげ”をねらって、昨年6月からシリーズ戦として始めたものだが、現在では人気レースのひとつとなっている。

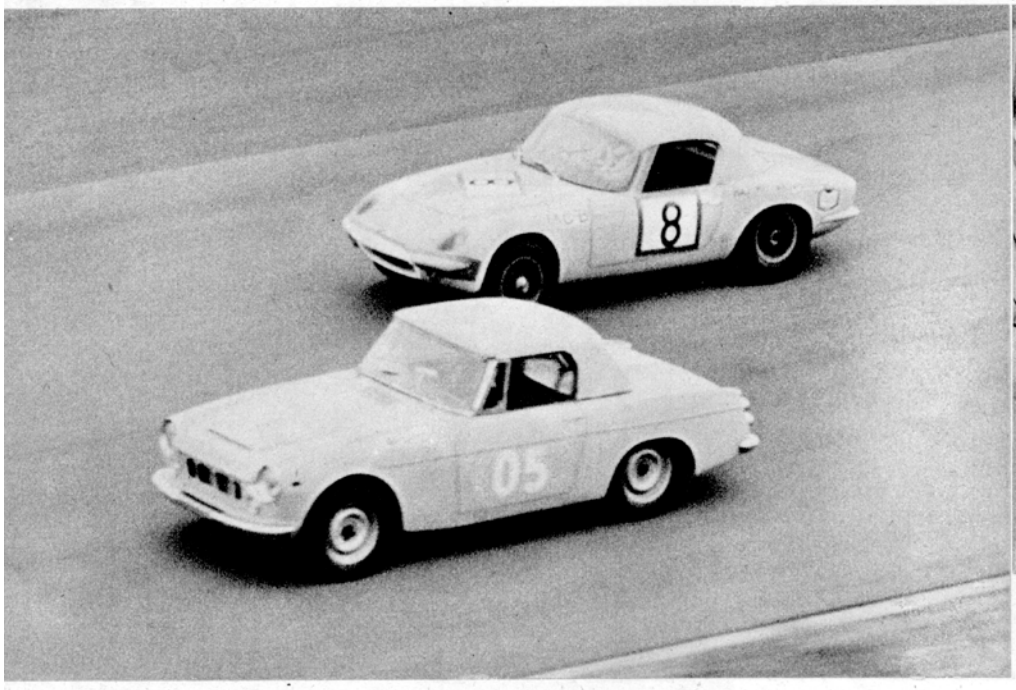
当日は晴れたり曇ったりの空模様。レースはチャンピオン・レースとフレッシュマン・レースの2種目で、それぞれクラスA(1300cc以下)、クラスB(1301cc～1600cc)、クラスC(1601cc以上)の3クラスに分かれている。

富士チャンピオン・レース

スターティング・グリッドには、予選で2分19秒を出した⑧渡辺一（ロータス・エラン）をポールポジションに21台の出場車が整列した。

今回のレースには外人選手ふたりがエントリーしていた。ひとりは㊻ロバート・ダンハム（コンテッサ・クーペ）、もうひとりは⑳波嵯栄菩珎（ロータス・エラン）。しかし、波嵯栄は、午前中のプラクティスで第3コーナーからS字にはいる地点で転倒、車を大破してしまった。このためダンハムだけが決勝に進出した。

午後3時ちょうど、21台の出走車がいっせいにスタート。ポー



3周め、メイン・スタンド前でトップの㊺真田(フェアレディ1600)をとらえる⑧渡辺（ロータス・エラン）。渡辺は、25周、150kmを58分36秒16のタイムで総合優勝し、トロフィーを手にした。

⇦スタートの一瞬。グランド・スタンド前にはげしいエキゾースト・ノートが響きわたる。前列右から⑧渡辺一（ロータス・エラン）、⑩萩原祐（プリンス2000GT）、⑤真田睦明（フェアレディ1600）、㉗長沢俊雄（プリンス2000GT）。

⇨デッド・ヒートのすえ㉞杉山（プリンス2000GT）を押えクラスC1位、総合3位に食い込んだ㉑両角（プリンス2000GT）。

ルポジションの渡辺はスタートが悪く7～8番手について30度バンクへ消える。渡辺は、予選ではいつもいいタイムを出すが、スタートはあまり得意ではないようだ。しかし、ヘヤピンは2位で通過。トップは⑤真田睦明のフェアレディ1600。真田はことしのチャンピオン・シリーズ前期第1戦で総合優勝した選手だ。

3周め、じりじりと追い上げていた渡辺はついに真田をとらえいっきにトップへ躍り出た。

今回はCクラスがあまり振るわず⑩萩原祐、㉑両角勝朗、㉞杉山武、㉗長沢俊雄らのプリンス2000GT勢が3位争そいを演じていた。だが、11周め、萩原がヘヤピン手前の100Rでスピンし、戦列を去った。けっきょく、両角がクラスC 1位、総合3位にはいった。

いっぽう、トップに出てからの渡辺は快調に飛ばし、周回をかさねるごとに2位の真田を引き離し独走となる。2位の真田はダイナミックな走法で単調なレースを盛り上げていた。

最終ラップ、最終コーナーをまわった渡辺は2位以下を1分以上引き離し、前回に引きつづき連続優勝をものにした。また、2分16秒の最高ラップ・タイムをも樹立した。外人選手のダンハムは、あまりふるわず、クラス3位、総合13位にとどまった。

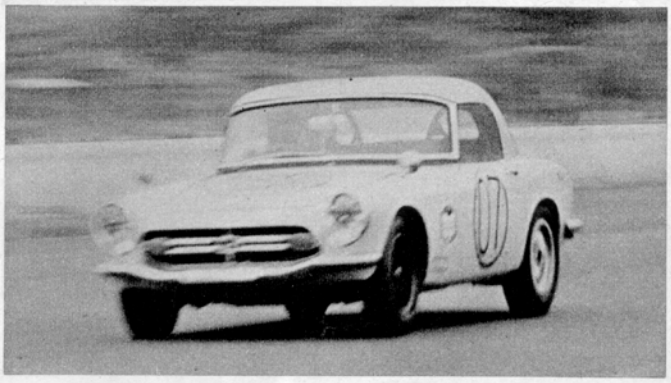
富士チャンピオン・レース結果

1位	渡辺　一（ロータス・エラン）	58分38秒16	25周
2位	真田睦明（フェアレディ1600）	59分53秒70	25周
3位	両角勝朗（プリンス2000GT）	59分01秒69	24周
4位	杉山　武（プリンス2000GT）	59分12秒59	24周
5位	長沢俊雄（プリンス2000GT）	59分13秒71	24周
6位	山田洋二（プリンス2000GT）	59分50秒98	24周

同日の午後1時30分からおこなわれたフレッシュマン・レースは、フェアレディ2000で出場した⑲瀬戸茂がプリンス2000GTの㉓千代間由親とせり合ったすえ、0.62秒差でこれをくだして優勝をとげた。

富士フレッシュマン・レース結果

1位	瀬戸　茂（フェアレディ2000）	19分38秒21	8周
2位	千代間由親（プリンス2000GT）	19分38秒83	8周
3位	橋本喜一郎（プリンス2000GT）	19分50秒05	8周
4位	大後俊昌（フェアレディ2000）	20分03秒47	8周
5位	熊野吉昭（プリンス2000GT）	20分34秒07	8周
6位	田島　明（フェアレディ2000）	20分42秒67	8周



1300ccクラスを相手どってどうどうクラスAの1位でフィニッシュした⑦金海順吉のホンダS800。

チャンピオン・シリーズに初めて姿を見せた㊻ロバート・ダンハムのコンテッサ・クーペ。マイペースで走りクラスA 3位でゴールした。

フレッシュマン・レースで総合優勝した⑲瀬戸茂のフェアレディ2000。後方は2位にはいった千代間由親（プリンス2000GT）。

この3月、日本の街にデビューしたホンダN360。フィアット500や、シトロエン2CVなどがもっている、あのエスプリのあるイキな車を手近に迎えたのです。エンジンは小粒だが、性能は、これら欧州の先輩以上。もちろん装備も豪華。今年5月いらい6ヵ月連続〈軽乗用〉のトップセラー。知る人ぞ知る車の真価が、広く仲間に呼応したからです。N360自身にも仲間がふえました。高性能〈軽〉ライトバンLN360に加えて、〈軽〉で最も広い荷台をもつ平床三方開トラックTN360。いずれもホンダならではの独自の機構がいっぱい。期待を裏切らない高性能車です。

イキな仲間がふえました

ホンダN360

354cc・4サイクル空冷2気筒OHCエンジン
最大出力31馬力・最高速度115km/h・0→400m加速22秒・登坂力20度・燃費28km/ℓ

¥313,000 工場渡し現金価格/埼玉県狭山

ヒーター・ウインドウォッシャー・バックライト・サイドマーカーランプ・前後席シートベルトアンカーなどデラックス装備が標準仕様。スペアタイヤ・工具一式付●オーローンの取扱いもいたします。

新発売

ホンダTN360

¥293,000 工場渡し現金価格/三重県鈴鹿

ホンダLN360

後部ドア横開き

¥308,000 工場渡し現金価格/埼玉県狭山

HONDA
本田技研工業株式会社